

令和4年度介護サービス事業者等感染対策推進事業 集合型研修

7月 5日(火)彦根市保健・医療複合施設くすのきセンター

7月 9日(土)彦根勤労福祉会館たちばな

7月20日(水)滋賀県看護研修センター

7月30日(土)滋賀県看護研修センター

# クラスター発生防止と発生時対応 ゾーニング・防護具着脱

## 滋賀県感染制御ネットワーク

滋賀医科大学医学部附属病院・感染管理認定看護師 竹村美和

公立甲賀病院・感染管理認定看護師 木下 桂

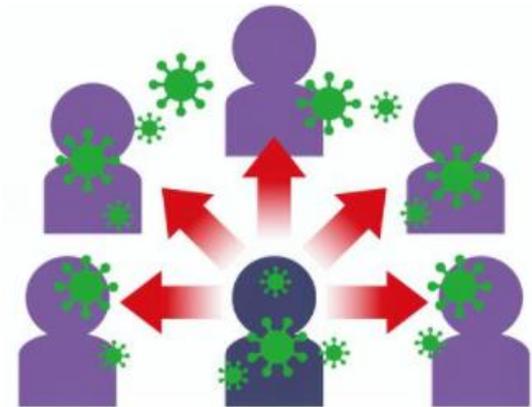
市立長浜病院・感染管理認定看護師 中村寛子

# 内容

- 新型コロナウイルス感染症におけるクラスターとは
- クラスター発生を防止するための準備
- クラスター発生防止対策
- コロナ陽性者が発生したら...
  - ゾーニング、防護具着脱
- クラスター事例
- クラスターを起こさないためのチェック

# 新型コロナウイルス感染症におけるクラスターとは

- クラスターとはリンク(接触歴)が追える集団として確認できる感染者の一群という意味。
- 連続的に集団発生を起こし(感染連鎖の継続)、大規模な集団発生(メガクラスター)につながりかねないと考えられる患者集団を指す。
- 厚生労働省は、『集団発生(クラスター)とは、間接触歴等が明らかとなる数人から数十人規模の発生』を目安としている。

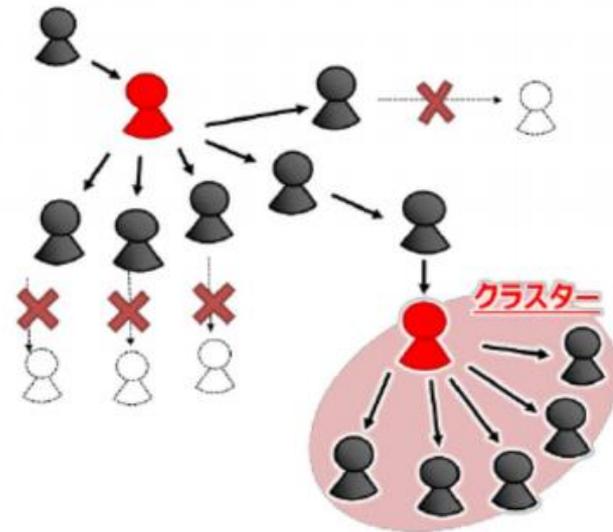


- すべての感染者が二次感染者を生み出しているわけではなく、全陽性者の約10～20%が二次感染者の発生に関係しているとの知見がある。

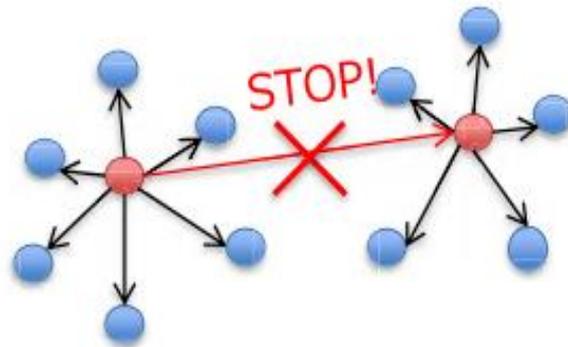


集団の迅速な検出、的確な対応が感染拡大防止の鍵になる

二次感染とは、「感染が他の人に拡がること」。



- クラスターが放置された場合、連続的に集団発生を起こし(感染連鎖の継続)、大規模な集団発生(メガクラスター)につながりかねない。
- いかに早く、クラスター発生を発見し、具体的な感染対策に結びつけられるかが、感染拡大を抑え事態を収束させられるか、大規模な感染拡大につながってしまうのかの分かれ目になる。



# クラスター発生を防止するための準備

## 【感染防止のための基本的な対策】

- 日頃からの標準予防策の実践  
手指衛生(手洗い・手指消毒)  
サージカルマスクの適切な着用 など
- 個人防護具の着脱訓練などの実施
- 37.5 度にとらわれない平熱との差に着目した体温管理(利用者・職員)
- 日頃からの環境清掃の実践



- 施設等で働くすべての職員は、標準予防策を徹底するとともに、人と接触する時はサージカルマスクを着用して業務にあたる。
- 利用者については、共用エリアに出るときや、職員等と接する時には、原則として(可能な範囲で)マスクを着用するように求める。
- 適切な隔離、ゾーニング及び清掃・消毒を実施するための手順を作成する。(自施設用の手順を作成することが重要)



# クラスター発生の防止のための対策

## 【適切な換気を実施する】

- 自施設の機械換気設備が、空気環境の調整に関する基準を満たしているか確認する。

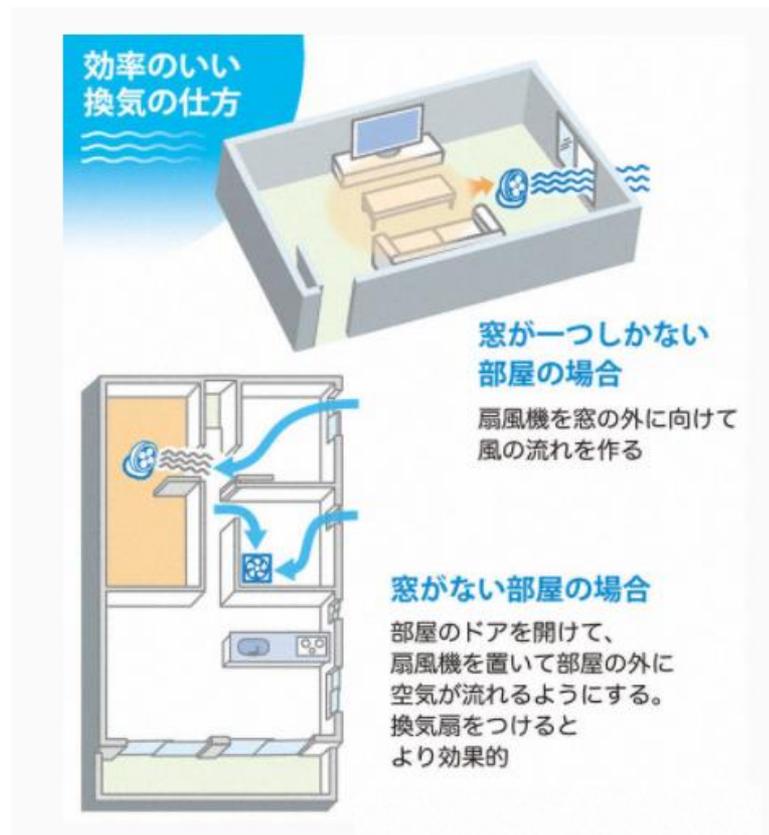
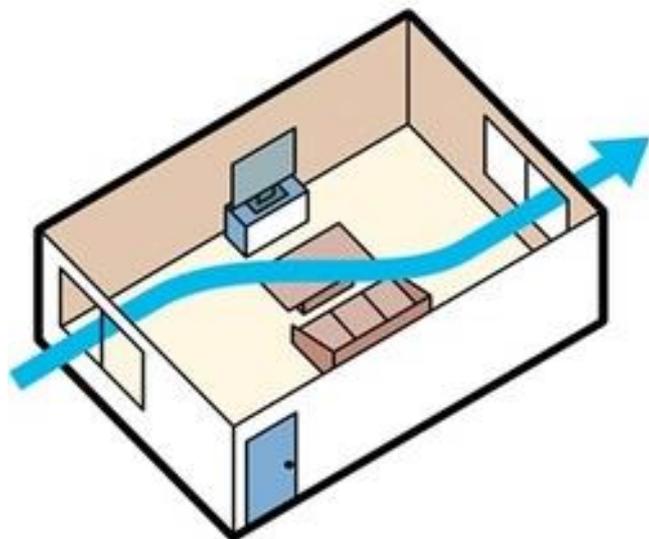
ビル管理法の考え方に基づく必要換気量

= 一人当たり毎時 $30\text{m}^3$

- 窓の開放による換気方法として、換気回数を毎時2回以上（30分に1回以上、数分程度、窓を全開）とする。

換気回数とは、部屋の空気がすべて外気と入れ替わる回数をいう。

- 空気の流れを作るため、複数の窓がある場合、二方向の壁の窓を開放する。窓が一つしかない場合は、ドアを開ける。





## 【3密を回避する】

- 会議や研修は集合形式にとらわれず、資料閲覧やWebなどを活用する。集合形式の場合でも、参加者を規定人数の1/3～半分にするなど人数制限を検討する。
- カンファレンスなど小規模な話し合いの工夫
  - 飲食をしながらの話し合いはしない
  - サージカルマスクを正しく着用する
  - 窓やドアを開け換気をしながら行う
  - 座席の間隔をあけ、密にならないようにする
  - 短時間で終了するよう考慮する
  - 終了後は、机や椅子、ドアノブなどの環境清掃を行う

## 【休憩中・食事中は、飛沫が飛ばない対策を実践】

- 食事をしながら会話はしない。
- 食事終了後は速やかにマスクを着用する。
- 対面だけでなく、隣の席でも食べながらの会話は飛沫が飛ぶため注意する。
- ドアや窓を開け換気をよくする。
- 食事は時間をずらすなど、少人数となるよう考慮する。
- 環境整備をこまめに実施する。



## 【更衣室でも感染対策の実践】

- 常にマスクを着用する。やむを得ず外す場合は周辺スタッフと会話をしない。
- マスクを着用していても大声での会話は控える。
- 可能な限り混みあう時間は避けて利用する。
- 飲食はしない。



# 新型コロナウイルス感染陽性者（疑い者）が発生した場合

## 【ゾーニングと隔離】

- 陽性者（疑い者）は、個室又は居室単位でのコホート隔離（陽性者を同一の場所で療養させること）とする。
- 利用者や職員に多数の陽性者が出た場合には、居室を超えた感染者の管理区域を設けるゾーニングも考慮する。
- 陽性者に対しては、原則として共用エリアは使用しないように求める。

# 新型コロナウイルスにおける ゾーニングの考え方①

## ゾーンの考え方

- 隔離対象者が在居している部屋や陽性者の退出直後の病室などが対象

### 必要なPPE等

- エアロゾルによる感染の可能性もあるため<sup>1)</sup>、基本的にはN95レスピレータを着用。
- 眼にウイルスが曝露する可能性がある場合はアイプロテクトを着用
- 着衣や手にウイルスが曝露する可能性がある場合は、ガウン・手袋を着用。
- N95レスピレータ以外のPPEはレッドゾーン内で脱衣許容

### 必要な設備等

- 陰圧または高換気な状態とするのが理想

## レッドゾーン

## ゾーンの考え方

- PPEを脱衣するゾーンなどが対象

- 隔離病室の廊下を対象とする場合もあるが、環境に存在するウイルスが飛散して感染する可能性は低いため、廊下をイエローゾーンとする必要性は低い
- ICU等では薬剤の受け渡しに活用
- 最近ではイエローゾーンを設けない施設も存在

### 必要なPPE等

- N95レスピレータを含むPPEはイエローゾーン内で脱衣
- 隔離病室前室はイエローゾーンとし、前室がなければ病室内でPPE脱衣
- 病室が狭い、精神疾患・認知症患者など病室内で脱衣できない場合は、廊下などにイエローゾーンを設定しPPE脱衣
- N95レスピレータを外した後はサージカルマスクを着用

## イエローゾーン

## ゾーンの考え方

- 通常業務を実施する場所などが対象

### 必要なPPE等

- レッド/イエローゾーンからグリーンゾーンに戻る場合は必ず手指衛生
- リユースするN95レスピレータやアイプロテクトはグリーンゾーンで保管許容(前室がある施設は前室で保管可能)
- 使用済みのガウン・手袋・未消毒のアイプロテクトを着用したまま戻るのは厳禁
- 職員間の感染予防としてサージカルマスクの着用は継続

### 補足事項(勤務中の留意事項など)

- 食事などでサージカルマスクを外した場合の会話は厳禁
- サージカルマスクを着用していても大きな声を出したり、密接したりする状況は回避

## グリーンゾーン

※ どのゾーンも床は汚染されている可能性があると考え、清潔物を床に直接置かない。ただし、床の消毒などの過剰な対応は不要である(日常的な清掃で十分)。

1) Clin Infect Dis. 2020 Aug 28;ciaa1283.

# 新型コロナウイルスにおける ゾーニングの考え方②

空気・環境に  
新型コロナウイルスが存在



レッドゾーン

(例) 隔離対象者の病室

空気には存在しないが  
環境には  
新型コロナウイルスが存在

最近では設定し  
ないことが多い。



イエローゾーン

(例) PPE\*を脱衣する場所

空気・環境に  
新型コロナウイルスが存在しない



グリーンゾーン

(例) 通常業務をするエリア

# 新型コロナウイルスにおける 各ゾーン進入時の基本的PPE

## N95レスピレータ(マスク)とアイプロテクト

※ アイプロテクトは飛沫が眼に曝露しない場合、N95レスピレータはエアロゾルが飛散していない状況(見回り時など)では着用の必要性低い(N95はサージカルマスクで代替)

## 不織布製マスク(サージカルマスク)



レッドゾーン

イエローゾーン

グリーンゾーン

ガウン・手袋は、飛沫など湿性生体物質<sup>†</sup>が着衣・手に曝露する場合や体位変換など直接接触する場合に着用

\* PPE: マスクや手袋などの个人防护具  
† 血液や体液、粘膜など、ヒト由来の湿り気のある物質

# 新型コロナウイルスにおける 隔離対象者の入院病室の考え方

個室隔離可能な場合  
(対象者少数)

個室隔離困難な場合  
(対象者多数)



陽性者

個室

多床室

陽性者以外の同室禁忌

※ 同じ病原体に感染している患者同士では、同じ病原体が感染する可能性が低い



濃厚接触者\*

個室

多床室

濃厚接触者以外の同室禁忌

※ 原則は個室隔離だが、すでに感染している可能性もあるため、病床が逼迫した場合はやむを得ない



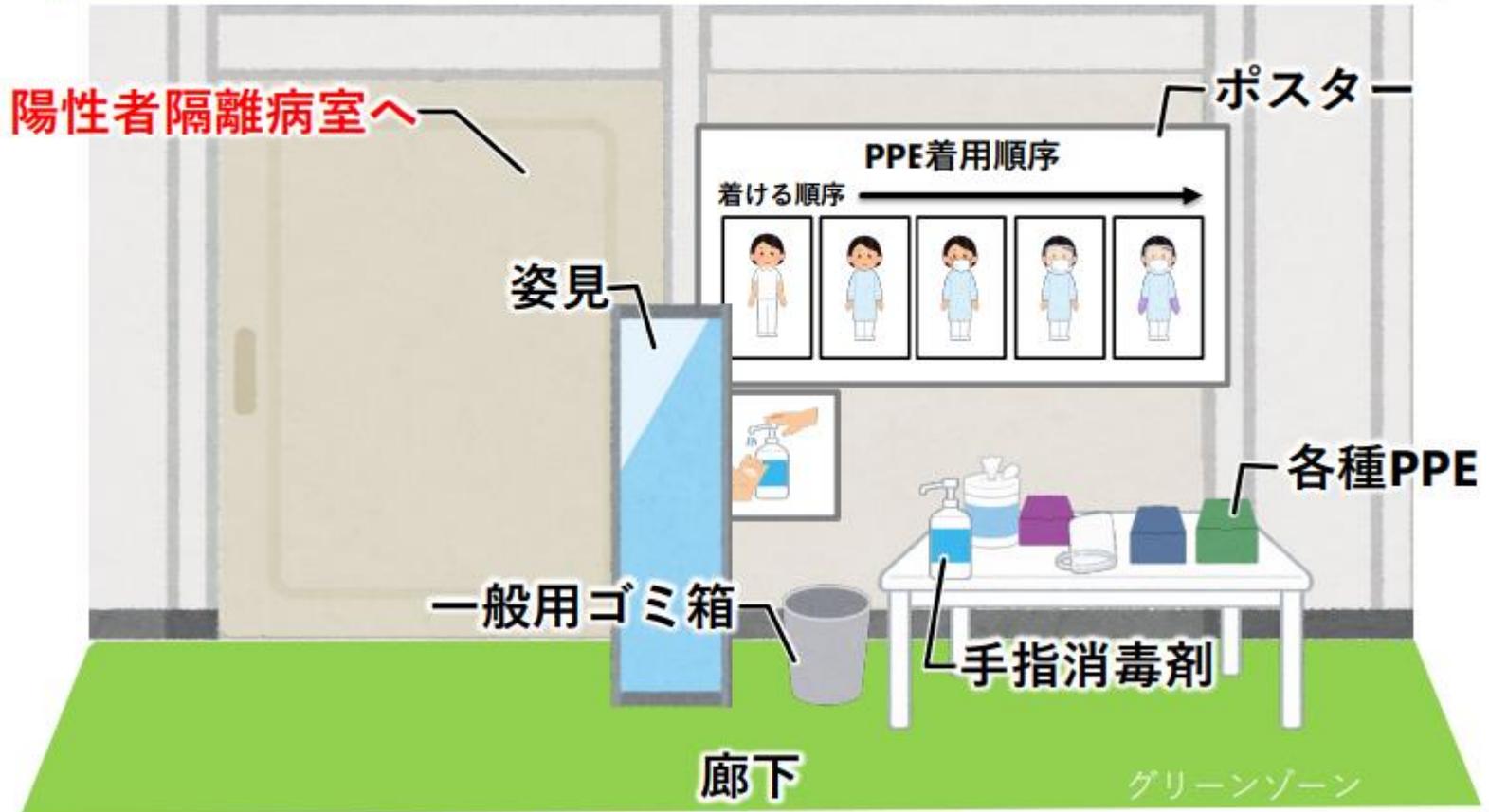
疑似症者

個室

個室

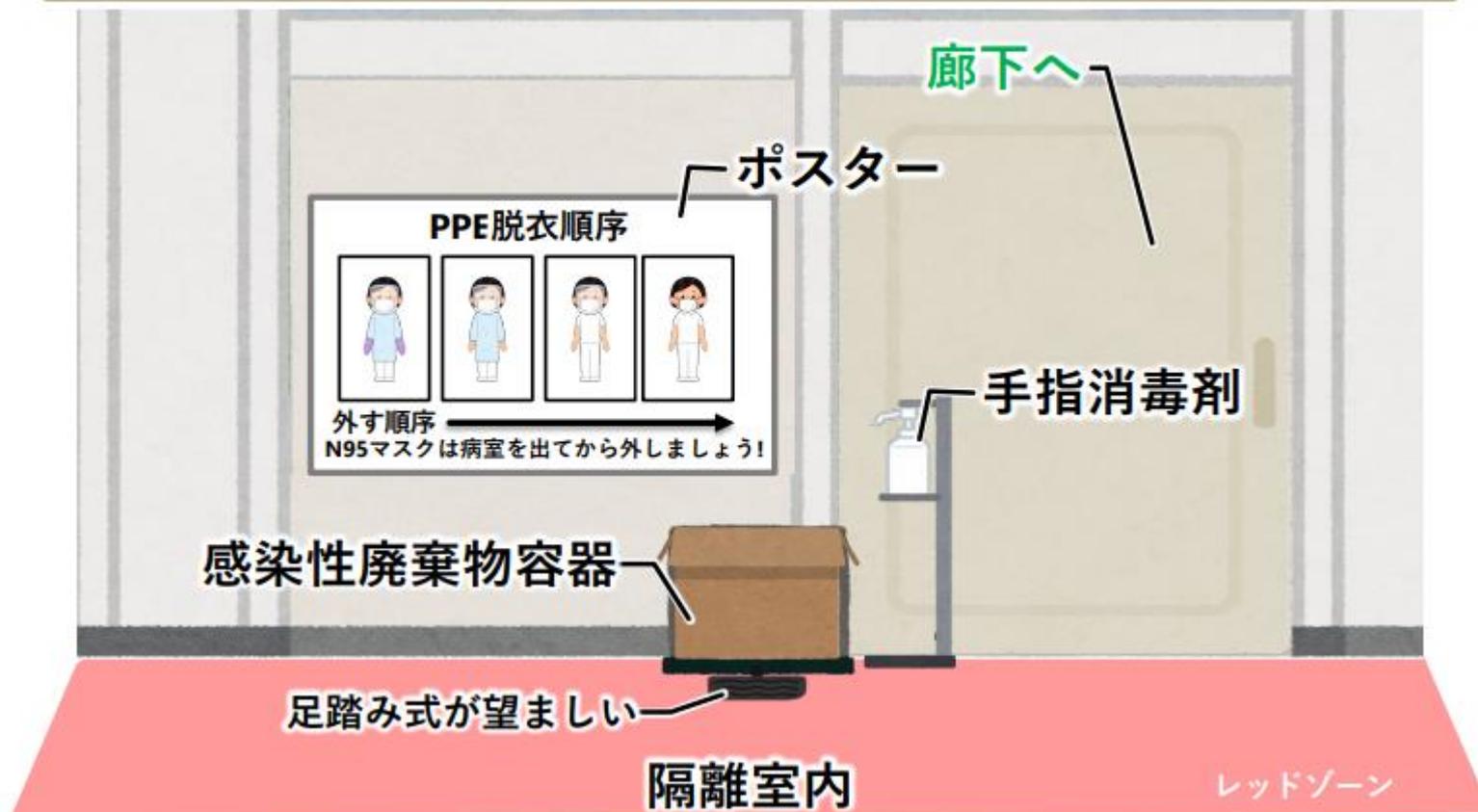
\* ここでの濃厚接触者とは施設内で認定された方を指す。  
例えば、陽性となった患者以外の同室患者など。

# PPE着用場所の例



実際の事例に基づき研究班において作成

# PPE脱衣場所の例



※フェイスシールドをエタノールクロス等で消毒して再使用する場合は、消毒後にグリーンゾーンで保管する。

実際の事例に基づき研究班において作成

# 防護具着脱(PPE着脱)訓練の必要性

- 感染の危険から守るためには、防護具を適切なタイミングで着用し、正しい方法で外すことが重要。
- 感染経路を断つための有効な手段がPPEの使用であり、いかに適切に用いるかがポイントになる。
- 「知っている」のではなく、「実践できる」ことが大切。
- 日頃からPPE着脱訓練を定期的実施する。

# 防護具の着け方

[https://www.safety.jrgoicp.org/img/download/ppe\\_catalog\\_2011](https://www.safety.jrgoicp.org/img/download/ppe_catalog_2011)

**1 ガウン・エプロン**

最初に手指衛生を行います。

**●ガウン**  
ひざから首、腕から手首、背留までしっかりガウンで覆い、首と腰のひもを結ぶ。

**●エプロン**  
首の部分を持って静かにかぶる。腰ひもをゆっくり広げて後ろで結ぶ。患者と接する部分に触れないで裾を広げる。

**2 サージカルマスク・N95 マスク**

**●サージカルマスク**

- ① 鼻あて部が上になるようにつけます。
- ② 鼻あて部を小鼻にフィットさせ、プリーツをひろげます。
- ③ 鼻あて部を小鼻にフィットさせます。はなは全体を覆うようにします。
- ④ マスクのプリーツを伸ばして、口と鼻をしっかりと覆います。
- ⑤ 装着完了。

**●N95 マスク**  
マスクを上下に広げ、鼻とあごを覆い、ゴムバンドで頭頂部と後頸部を固定。ユーザーシールチェック（フィットチェック）を行う。 ※詳細は25ページ参照

**3 ゴーグル・フェイスシールド**

顔・眼をしっかりと覆うよう装着する。

**●ゴーグル**

**●フェイスシールド**

**4 手袋**

**●手袋**  
手首が露出しないようにガウンの袖口まで覆う。

✗ 手首が露出している

# 防護具の外し方

[https://www.safety.jrgoicp.org/img/download/ppe\\_catalog\\_2011](https://www.safety.jrgoicp.org/img/download/ppe_catalog_2011)

## 1 手袋



### ●手袋

外側をつまんで片側の手袋を中表にして外し、まだ手袋を着用している手で外した手袋を持っておく。手袋を脱いだ手の指先を、もう一方の手首と手袋の間に滑り込ませ、そのまま引き上げるようにして脱ぐ。2枚の手袋をひとかたまりとなった状態でそのまま廃棄する。



ここで手指衛生。

## 2 ゴーグル・フェイスシールド

外側表面は汚染しているため、ゴムひもやフレーム部分をつまんで外し、そのまま廃棄、もしくは所定の場所に置く。



### ●ゴーグル



### ●フェイスシールド

## 3 ガウン・エプロン

### ●ガウン

ひもを外し、ガウンの外側には触れないようにして首や肩の内側から手を入れ、中表にして脱ぐ。小さく丸めて廃棄する。



### ●エプロン

首の後ろにあるミシン目を引き、腰ひもの高さまで外側を中にして折り込む。左右の裾を腰ひもの高さまで持ち上げ、外側を中にして折り込む。後ろの腰ひもを切り、小さくまとめて廃棄する。



ここで手指衛生。

## 4 サージカルマスク・N95 マスク

### ●サージカルマスク・N95 マスク

ゴムやひもをつまんで外し、マスクの表面には触れずに廃棄する。



最後にもう一度手指衛生を行います。

## 【濃厚接触が疑われる職員の確認】

- 対象者（職員）と感染者の接触時の個人防護具の使用状況と接触の程度、接触時間を確認する。
- 対象者（職員）の休憩室での過ごし方を確認する。
- 濃厚接触には当たらない接触者や有症状者についてもそれぞれ同定する。



## 利用者・職員に陽性者が発生したら...

- 保健所との連携はもちろん！
  - 初期評価が終わるまでは、施設の機能を一時的に止めることを検討する。
  - 陽性者の行動を詳細に調査する
    - 発症日の2日前から入院(隔離)までの行動
      - ⇒感染可能期間の行動を調査する
    - 発症日の14日前からの行動
      - ⇒感染源を推定するため
- 保健所の役割
- 陽性者が初発とは限らないことに留意する

- 陽性者以外の有症状者の把握と隔離  
ゾーニング、コホーティングの実施
- 濃厚接触者、その他接触者の把握と対策  
濃厚接触者も隔離が必要  
有症状者とは一緒の部屋にはしない
- 利用者、家族、職員への適切な説明
- 速やかな検査の実施  
保健所の指示に従う

# 濃厚接触者、その他の接触者の把握

- 濃厚接触者やその他の接触者の把握は、その後の感染管理に重要
- 面会者（家族等）、退所者、通所者も漏れないようにリストアップする
- 職員の業務時の行動（場所・時間）、感染防護の有無を確認する
- 委託業者等の出入りについても確認する（リネン、廃棄物、清掃など）

# 濃厚接触者とは

出典: 新型コロナウイルス感染症患者に対する積極的疫学調査実施要領

「濃厚接触者」とは、「患者(確定例)」「(「無症状病原体保有者」を含む。以下同じ。)の感染可能期間において当該患者が入院、宿泊療養又は自宅療養を開始するまでに接触した者のうち、次の範囲に該当する者

- 患者(確定例)と同居あるいは長時間の接触(車内、航空機内等を含む)があった者
- 適切な感染防護無しに患者(確定例)を診察、看護若しくは介護していた者
- 患者(確定例)の気道分泌液もしくは体液等の汚染物質に直接接触した可能性が高い者
- その他: 手で触れることの出来る距離(目安として1メートル)で、必要な感染予防策なしで、患者(確定例)と15分以上の接触があった者

# 新型コロナウイルス感染症患者の接触者リスト例

医療機関・施設用

## 新型コロナウイルス感染症患者の接触者リスト

※ 月 日～ 月 日までの状況をご記入ください

施設名：

住所：

連絡先：

担当者名：

### 接触者リスト（濃厚接触者）

接触者 番号	フリガナ 氏名	所属 (外名、病種名、職種等)	年齢	接触状況 等	感染防護具 等	症状の有無 (発症日、症状)	備考
例	天草 太郎	○病棟	36	①受け持ち日(本人、同室患者)：4/1、4/2 ②処置の種類等：バイタル、体位変換、食事 介助、清拭、検体採取	マスク・ガウン・手袋・ フェイスシールド(ゴーグル)・ 処置後の手指消毒	無/有 (症状： 月 日～)	
1					マスク・ガウン・手袋・ フェイスシールド(ゴーグル)・ 処置後の手指消毒	無/有 (症状： 月 日～)	
2					マスク・ガウン・手袋・ フェイスシールド(ゴーグル)・ 処置後の手指消毒	無/有 (症状： 月 日～)	
3					マスク・ガウン・手袋・ フェイスシールド(ゴーグル)・ 処置後の手指消毒	/有 (症状： 月 日～)	
4					マスク・ガウン・手袋・ フェイスシールド(ゴーグル)・ 処置後の手指消毒	無/有 (症状： 月 日～)	
5					マスク・ガウン・手袋・ フェイスシールド(ゴーグル)・ 処置後の手指消毒	無/有 ? (症状： 月 日～)	
6					マスク・ガウン・手袋・ フェイスシールド(ゴーグル)・ 処置後の手指消毒	無/有 (症状： 月 日～)	
7					マスク・ガウン・手袋・ フェイスシールド(ゴーグル)・ 処置後の手指消毒	無/有 (症状： 月 日～)	
8					マスク・ガウン・手袋・ フェイスシールド(ゴーグル)・ 処置後の手指消毒	無/有 (症状： 月 日～)	
9					マスク・ガウン・手袋・ フェイスシールド(ゴーグル)・ 処置後の手指消毒	無/有 (症状： 月 日～)	

社会福祉施設用

氏名：  
所属：

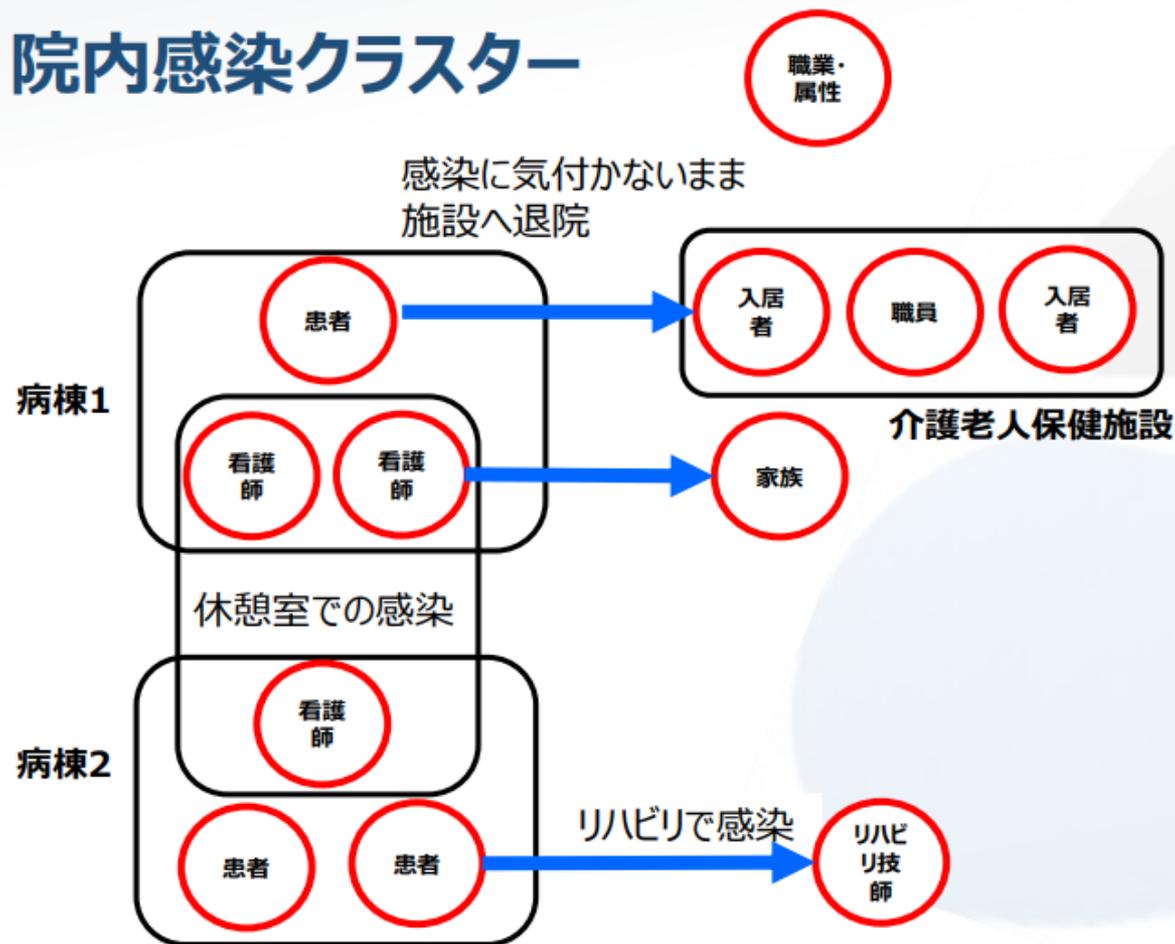
### 感染予防策の実施状況について

患者さん等への処置を行う際の感染予防策の実施状況について、  
ご記入をお願いいたします。

職種等	居住（業務） フロア	予防策の 内容	実施した処置（当てはまるものに○）						接触時間の 合計が15分 以上
			吸引	おむつ 交換	食事 介助	口腔ケア	1m以内 の会話	その他 ( )	
		マスク							
		ガウン							
		手袋							
		フェイスシールド・ゴーグル							
		処置後の手指消毒							
		その他							

# クラスター事例

## 院内感染クラスター



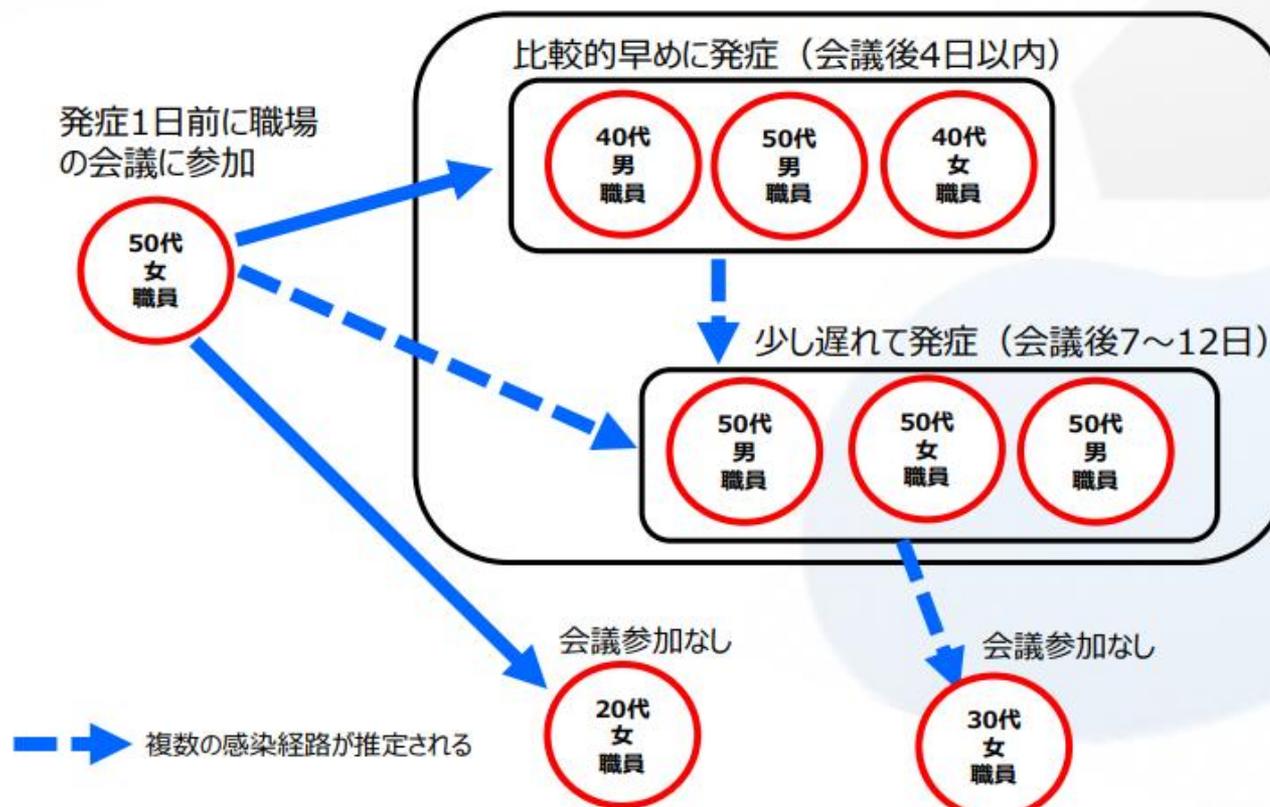
### 分かったこと

- ・処置やリハビリ時の感染対策の不徹底による職員の感染
- ・休憩室など換気が悪く、密な場所での感染  
→別病棟への広がり
- ・感染に気付かないまま、施設へ退院、退院先で感染波及

- ・標準予防策、経路別感染予防策の徹底
- ・有症状者の早期探知
- ・院内の3密を減らす工夫
- ・転院、退院時の情報共有

# 職場会議クラスター

年代  
性別  
職業



## 分かったこと

・職場の会議は、締め切った空間で一同に会してプレゼンや議論をし、3密（密閉、密集、密接）となることが多い

Web会議等が勧められるが、対面の会議を開催する場合は、

- ・換気の徹底
- ・十分に間隔をとる
- ・マスクを着用に十分留意してください

# クラスターを起こさないためのチェック

COVID-19 院内ラウンドチェックリスト

	項目	チェック
<b>一般病棟</b>		
1	職員はマスクを勤務中は常時適切に着用している(ユニバーサルマスキングとして)	
2	職員は適切に手指衛生をしている。	
3	患者は適切にマスクを着用している。	
4	PPE、医療物品は適切に整理整頓、保管されている。	
5	吸引、口腔ケア時はマスク、アイプロテクション(ゴーグル or フェイスシールド)、エプロン、手袋を装着している。	
6	食事介助、リハビリ時はアイプロテクションを装着している。	
7	ナースステーションではマスク以外の PPE を着用していない。	
8	PC 使用前後に手指消毒をしている。	
9	職員は自分の顔(目、鼻、口)に触れる前に手指消毒している。	
10	高頻度接触面を中心に清拭している。	
11	病室の空調(換気システム)は常時稼働させている。	
12	病室に換気システムがない場合は開窓などを実施している。	
<b>コロナ疑似・確定病床</b>		
13	疑似症患者エリアは、清潔・不潔を区別しゾーニングされている。	
14	確定患者エリアは、清潔・不潔を区別しゾーニングされている。	
15	PPE を外す場所には感染性廃棄物容器があり、適切に廃棄されている。	
16	PPE を外す場所には手指消毒剤があり、PPE 毎を外した後に手指消毒されている。	
17	PPE のガウン・エプロン・手袋は使用後に廃棄している。再使用していない。	
18	PPE を再利用する場合は、N95 マスクは適切に保管、ゴーグル・フェイスシールドは適切に消毒されている。	
19	グリーンゾーンでマスク以外の PPE を着用していない。	
20	高頻度接触面を中心に清拭している。	
<b>診療外エリア</b>		
21	空調は常時稼働させ、可能なら開窓している。	
22	職員は適切にマスクを着用している。	
23	休憩室、医師勤務室、会議室での密集を避け、高頻度接触面は清拭している。	
24	食事の直前にマスクを外し、直後に着用している。食事中は会話していない。	
25	仮眠室・当直室のリネン(枕・布団カバー・シーツなど)は使用ごと交換し、高頻度接触面は清拭している。	
26	更衣室でもマスクを着用し、私語を慎み、なるべく短時間の使用にしている。	

日常的感染対策の確認

食事場面や更衣室での対策の確認

本資料は、厚生労働科学特別研究事業 新型コロナウイルス感染症に対する院内および施設内感染対策の確立に向けた研究 <http://www.tohoku-icnet.ac/covid-19/mhlw-wg/>(主任研究者 賀来満夫 分担研究者 國島広之)で作成しました。

新型コロナウイルス感染症の院内・施設内感染対策チェックリスト

2020.7

流行時対策		中小病院・長期療養型施設・高齢者介護施設	自施設でのチェック	支援チームのチェック
感染対策組織	病院内・施設内感染対策委員会の設置	病院長(施設長)の下、報告・指示体制の明確化	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	感染対策チームの編成	感染対策を担当する医師、看護師、スタッフの任命	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	保健所等行政機関との連携	保健所等行政機関の窓口、担当者の確認、患者(利用者)や職員の有症状時のPCR等検査の受診窓口の確認	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	近隣の医療機関との医療連携	支援を受けられる医療機関の確保、リスト作成	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	家族の緊急連絡先等の情報収集、更新	入院時・入所時の連絡先の情報収集、更新	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	対外的な問い合わせ窓口を設置	家族、行政、マスコミ等の窓口担当者の設置	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
職員の管理	職員の症状の確認	職員の毎日の健康チェック、体温測定	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	職員の教育	手指衛生、標準予防策、感染経路別予防策など感染対策の講習	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	有症状者(職員・外部委託業者も含む)の休業、報告	発熱、鼻閉、鼻汁、咳嗽、咽頭痛、頭痛、呼吸困難感、倦怠感、味覚・嗅覚障害などの有無	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	有症状者の医療機関受診、診断	早期の医療機関受診、PCR等検査の推奨	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	職場復帰の時期	症状消失後48時間の自宅療養後	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	会議の開催・研修会など	会議のオンライン化、中止、延期の検討、または、人数制限や場所を考慮し密を避ける	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	マスク、個人防護具の適正使用	常時マスクの着用、必要に応じた個人防護具の着用、脱着手順	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	白衣・ユニフォーム	毎日交換・洗濯	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	職場の環境	換気に注意し、高頻度接触部位の消毒、人の動線を考えた配置	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	休憩室、更衣室での環境	向かい合って座らない、個別で物品を使用する、休憩ごとに換気をする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	当直室・仮眠室	シーツは使用の度に交換、高頻度接触部位の消毒	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
患者(利用者)の管理	患者(利用者)の症状を確認	患者(利用者)の健康状態を観察・把握し、有症状者の把握	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	患者(利用者)の教育	手指衛生、マスク着用の教育	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	健康状態を毎日確認し、有症状者の個室対応	発熱、鼻閉、鼻汁、咳嗽、咽頭痛、頭痛、呼吸困難感、倦怠感、味覚・嗅覚障害などの有無	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	症候群サーベイランスの実施	毎日確認した症状を病棟別で集計する	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	患者(利用者)の共有スペースの使用	デイルーム、食堂における身体的距離の確保	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	マスクの常時着用	常時、マスクの使用が可能な場合は常時着用	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	共用部分の消毒	高頻度接触部位(ドアノブ、ベッド柵、手すり、エレベータースイッチ、スイッチ、テーブル、パソコン、電話、多数の患者が使用する器具など)の定期的な消毒	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

# 参考文献

- 新型コロナウイルス感染症患者に対する積極的疫学調査実施要領(令和3年1月8日版)  
<https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/corona/COVID19-02-210108.pdf>
- クラスタ事例集 国立感染症研究所感染症疫学センター  
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000654503.pdf>
- 新型コロナウイルス感染症の院内感染の早期収束と入院・外来機能への影響の最小化  
新型コロナウイルス感染症対策本部 令和2年12月25日  
<https://www.mhlw.go.jp/content/000712411.pdf>
- 新型コロナウイルス感染症患者に対する積極的疫学調査実施要領 国立感染症研究所  
感染症疫学センター 令和3年1月8日版  
<https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/corona/COVID19-02-210108.pdf>
- COVID-19院内ラウンドチェックリスト  
[http://www.tohoku-icnet.ac/covid-19/mhlw-wg/images/division/medical\\_institution/d01\\_pdf02.pdf](http://www.tohoku-icnet.ac/covid-19/mhlw-wg/images/division/medical_institution/d01_pdf02.pdf)
- 新型コロナウイルス感染症の院内・施設内感染対策チェックリスト 日本環境感染学会  
[http://www.kankyokansen.org/modules/news/index.php?content\\_id=364](http://www.kankyokansen.org/modules/news/index.php?content_id=364)
- 令和2年度厚生労働科学特別研究事業「新型コロナウイルス感染症に対する院内および施設内感染対策の確立にむけた研究」(研究代表者:賀来満夫)『医療機関における新型コロナウイルスにおけるゾーニングの考え方』(令3年7月28日)  
[http://www.tohoku-icnet.ac/covid-19/mhlw-wg/images/division/medical\\_institution/d01\\_pdf03.pdf](http://www.tohoku-icnet.ac/covid-19/mhlw-wg/images/division/medical_institution/d01_pdf03.pdf)
- 個人用防護具(PPE)の着脱手順 職業感染制御研究会  
[https://www.safety.jrgoicp.org/img/download/ppe\\_catalog\\_2011](https://www.safety.jrgoicp.org/img/download/ppe_catalog_2011)

